

5. 水（海と川）と緑（まちと山）の特性と課題

ここでは、概観した水と緑の現状を踏まえて、大磯の特色を活かしながら、緑がもつ地球や地域にやさしい「環境保全」、暮らす人々に憩いと安らぎを与える「レクリエーション」、安全と安心を与える「防災」、地域固有の「景観構成」の4つの機能と大磯が蓄積し、継承してきた歴史、まちの移り変わりなどの「緑とまちの変遷の特性」から、本町の水と緑の特性と課題をまとめます。

■緑地の機能と内容

緑地の機能	内 容
環境保全	都市の特色となる緑と水辺の骨格を形成し、身近な生活環境や貴重な自然環境を保全するとともに、自然との触れ合いによる人間形成に資する緑地の機能
レクリエーション	都市の資源を活かし、多様なレクリエーションへのニーズに対応し、日常・週末などのレクリエーション活動に資する緑地の機能
防災	災害の防止、災害時における避難路、避難場所として、あるいは都市公害の緩和に資する緑地の機能
景観構成	特色ある自然景観、歴史・文化的景観など都市が育んできた景観要素を活かし、都市に暮らす人々のアイデンティティとなる、良好な都市景観の形成に資する緑地

【アイデンティティ】

自己同一性（自分の正体、自分という存在の自己証明）という心理学から派生した言葉で、自己証明、個性、独自性などの意味で使われる。

(1) 都市環境の特性と改善のための課題（環境保全機能）

現在、温暖化、二酸化炭素の排出など地球環境に対する様々な影響が問題となっています。都市環境負荷を低減し、良好で本町の特色となる水と緑の環境を保全することが必要です。この課題を図上に示した「環境保全機能図」を次頁に掲示します。

【都市環境負荷】
ヒートアイランド現象、交通需要の増大による二酸化炭素などの大気汚染の滞留、エネルギー需要の拡大などの都市環境に与える影響

【ヒートアイランド】
都市活動により生じる気温の上昇現象。気温の等高線を描くと、都市の中心部が熱の島のように捉えられることから呼ばれている。

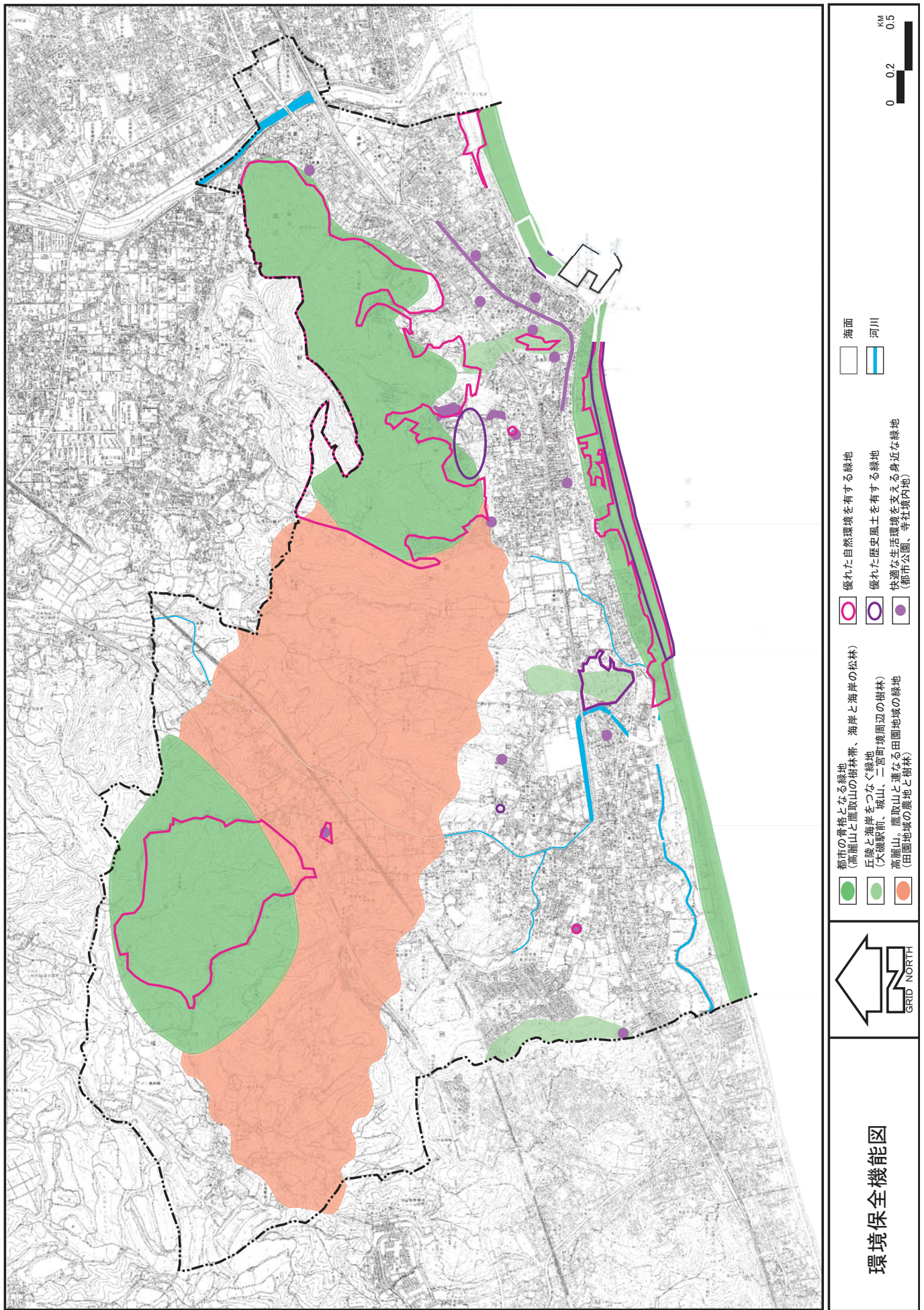
- ・北の丘陵地、南の海の水辺と緑（松林）、これを繋げる丘陵から海へと結ぶ緑が本町の水と緑の骨格であり、環境負荷の低減の効果なども含めた保全
- ・良好な緑として、高麗山（自然林）と鷹取山とのまとまった樹林帯の保全
- ・市街地の身近な公園、城山公園、寺社林など、大磯駅の南北の丘陵の斜面緑地、北西部の田園地域の里山的な環境など、市街地とそれに隣接する貴重な緑の保全
- ・旧東海道の松並木、旧吉田邸、神崩山などは、歴史・文化的な資源と一体となった緑としての保全
- ・まちの中を流れる河川や池などは、貴重な水辺としての保全
- ・丘陵地や市街地の緑、海岸の緑地、野生生物の生息地である河川などの水辺は環境の維持

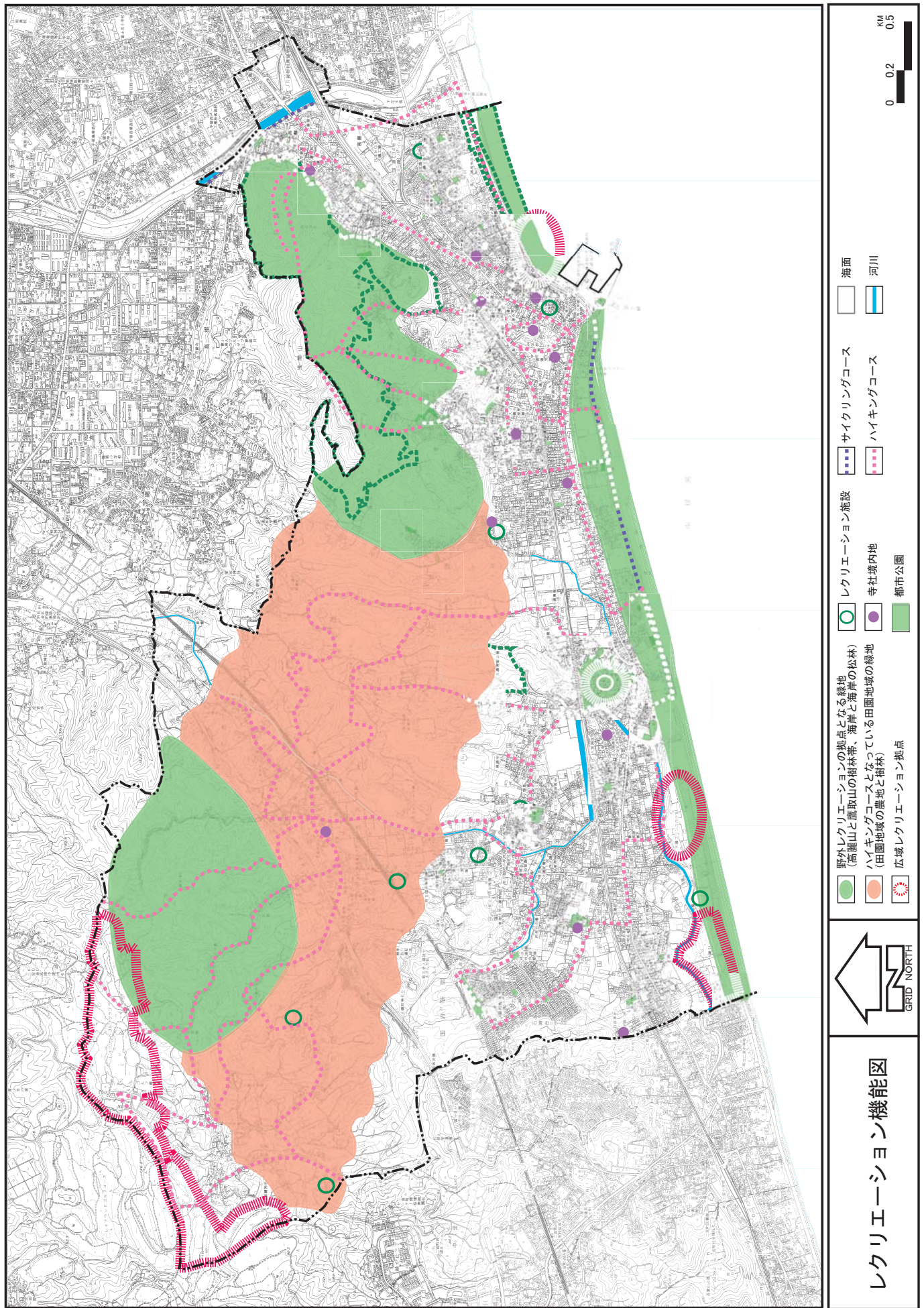
(2) レクリエーションの特性と場の提供のための課題（レクリエーション機能）

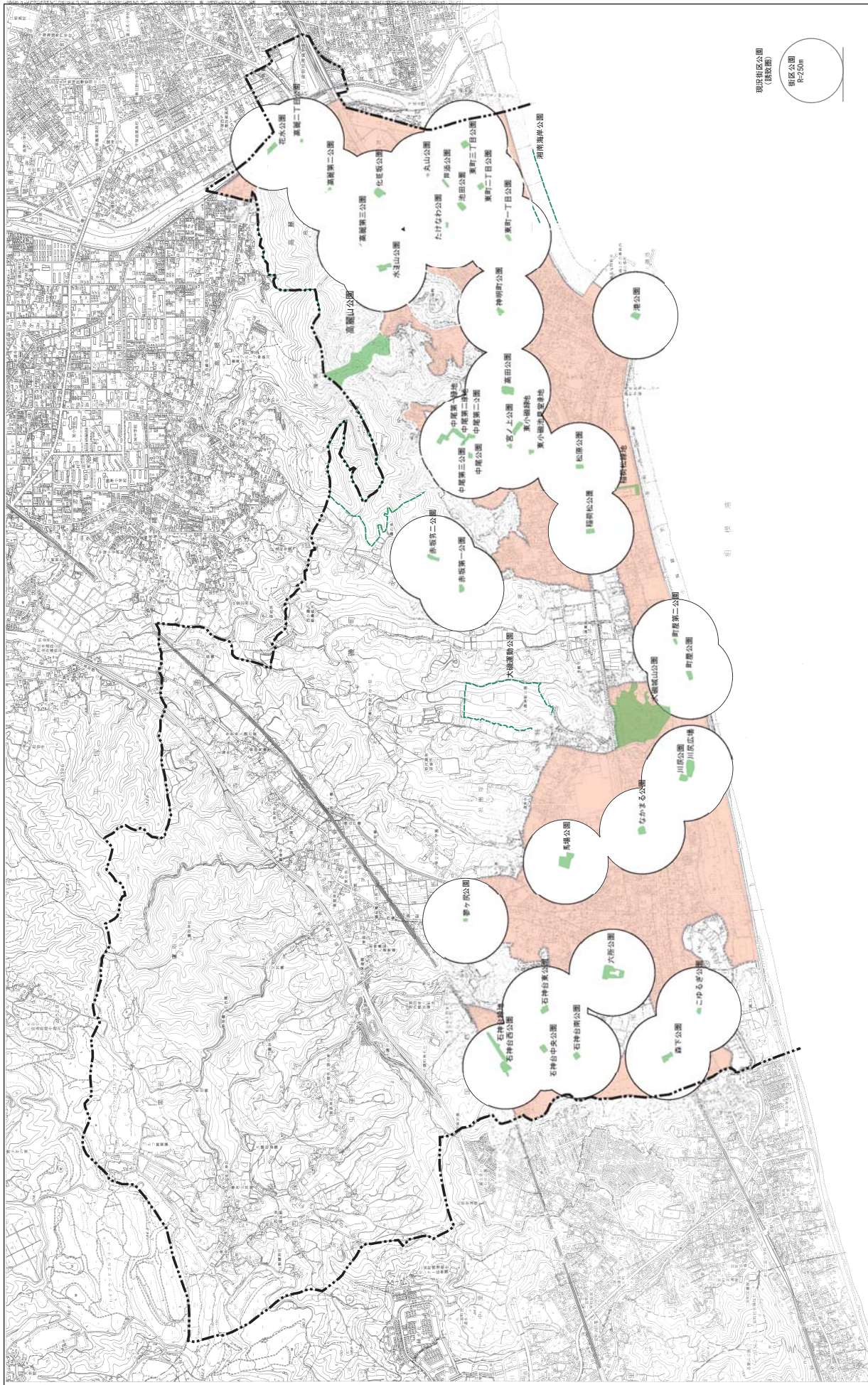
少子化や高齢化の進行並びに余暇やレクリエーションの多様化など、町に暮らす人々の状況やニーズに合わせた公園緑地の整備が必要です。身近な公園や寺社などが数多くありますが、コミュニティ単位で活用する公園や運動などに利用する公園がありません。これらを含めた公園緑地の整備とネットワークの形成が課題となっています。この課題を示した「レクリエーション機能図」をP15、「都市公園の誘致圏図」をP16に提示します。

【コミュニティ】
一定の地域に居住して、共に同じ社会に属しているという感情を持つ人々の集団。地域社会。

- ・北部の丘陵地や山間地は、豊かな緑の環境が残されており、これを保全するとともに環境と調和した自然とのふれあいや体験の場づくり
- ・丘陵地と市街地に挟まれた田園地域は、ハイキングや散策などのコースとなり、市街地に接する緑とオープンスペースとして保全するとともに、町民のレクリエーション場として検討
- ・身近な憩いやレクリエーションの場として、市街地内の公園緑地の整備を図るとともに、公共施設緑地や民間施設緑地の活用の検討
- ・社会経済情勢や町民の多様なレクリエーションニーズに対応した広域的な公園緑地の整備と交流環境の創造
- ・道路、歩行者道路、自転車道、海辺や河川などを活用した水と緑のネットワークの形成
- ・市街地における都市公園の誘致圏からはずれた公園サービス対象区域における公園緑地整備の推進







都市公園の誘致圏図

都市公園 整備済み	都市公園 未整備	公園サービス対象区域

都市公園
R=250m

都市公園
R=250m

都市公園
R=250m

0 0.2 0.5

KM

(3) 災害の防止と避難の確保のための課題 (防災機能)

近年の都市災害の発生は、災害に強いまちづくりが必要であることを私たちに強く印象づけました。水と緑はこれらの災害を防ぐとともに、災害時の安全な避難の確保や避難地としての役割も担っています。災害の防止と避難の確保のための水と緑の配置が課題となっています。これらの課題を示した「防災機能図」をP18に提示します。

- ・自然災害を防ぐ緑として、丘陵地、山間地の緑、市街地に隣接する斜面緑地、海辺の緑などの保全
- ・水害の抑止としての河川と池、農用地の保全
- ・市街地内の公園緑地、公共・民間施設緑地、農地などは災害時の延焼防止や安全な避難のために極力保全
- ・地域防災計画と連携した水と緑のネットワークの形成による避難路や公園緑地の整備による避難地の確保
- ・まちの中を流れる河川や池などは、貴重な水辺として保全を図る。

(4) 景観の特性と風景の創造のための課題 (景観構成機能)

北部の丘陵地や山間地、これと市街地に挟まれた田園地域、市街地、海辺と特色のある景観構造が形づくられています。また、市街地内には旧東海道、寺社、旧吉田邸などの歴史的な資源も数多く残されています。これらの特色ある景観資源を保全するとともに、再生、創造することにより、将来の大磯の原風景となる景観を生み出すことが課題となっています。これらの課題を示した「景観構成機能図」をP19に提示します。

- ・北部の丘陵、山地の自然景観の保全、景観の枠組みとなる尾根線、スカイラインの保全
- ・田園地域の農地と調和した自然景観の保全
- ・海岸線と松林などの自然景観の保全
- ・河川や池などの水辺の景観の保全
- ・市街地の旧東海道の松並木、寺社、旧吉田邸などの歴史・文化的な景観の保全
- ・山地や、丘陵地、海辺などの特色ある景観を眺望できる場づくり
- ・ランドマークとなる自然景観、道や橋などの構造物、建築などの保全とデザイン化

【原風景】

心に浮かぶ風景で原体験を思い起こさせるイメージ。

【スカイライン】

山や建物などの空を画する輪郭。地平線など。

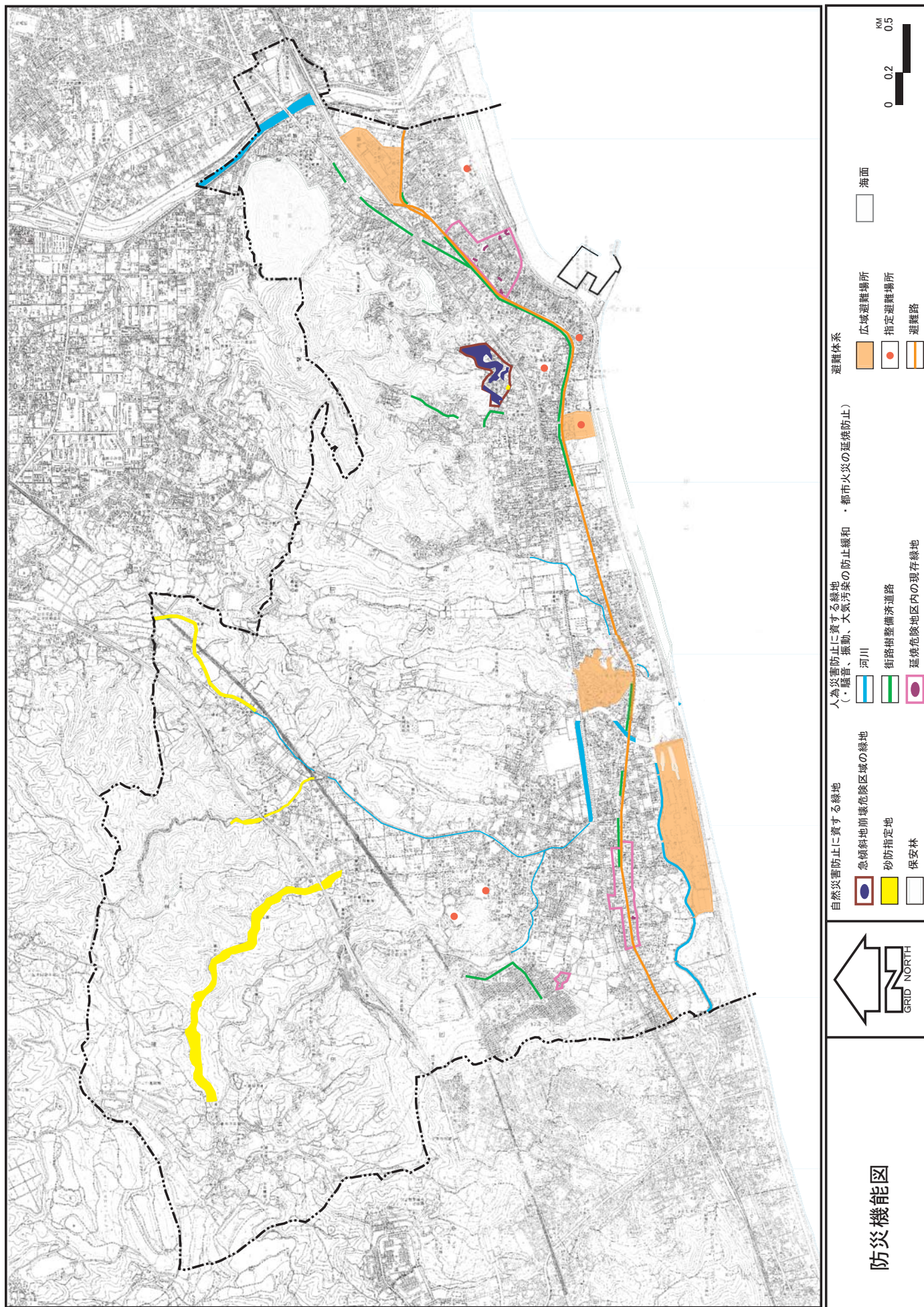
【ランド・マーク】

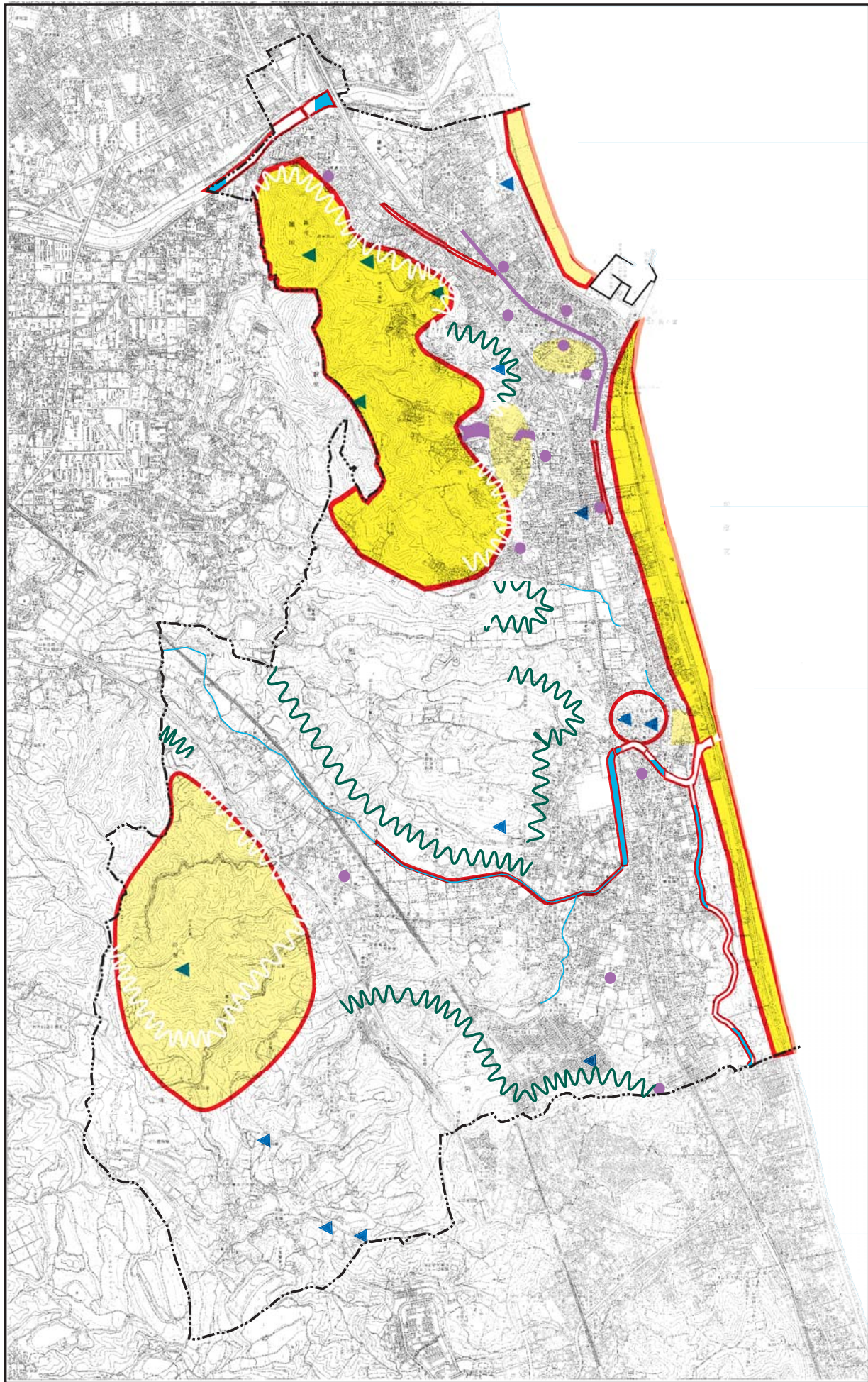
都市や地域の中にあって、視覚的な目印となる対象。超高層ビルや山、あるいは特徴的な坂など。

(5) 緑とまちの変遷の特性と課題

緑とまちの変遷(大正12年～平成10年)から緑の保全と創出のための課題を探ります。これらの課題を示した「緑とまちの変遷の特性図」をP20に提示します。

- ・北の丘陵地、山間地におけるゴルフ場開発や集落地の拡大、関連施設(農業、公共施設等)などの整備による緑の自然環境の減少、良好な自然環境を守る方法が必要
- ・丘陵地から田園地域の境の緑は、水田や畑が緑地になったものもあり緑が増加、土地利用転換による緑化の可能性
- ・町の西側は住宅開発などにより丘陵地の緑が侵食されている、貴重な緑は保全、特色のある緑を残した開発
- ・町の東側は、旧市街地が徐々に丘陵地や海岸部へと進行、緑が侵食されている、貴重な緑は保全、特色のある緑を残した開発
- ・海岸部に残されている連続した島状の緑地(松林等)の保全と再生
- ・海岸線は、西側で侵食され、東側で堆積している、大磯港の再整備、海岸の特色を活かした保全と再生、自然環境と調和した活用





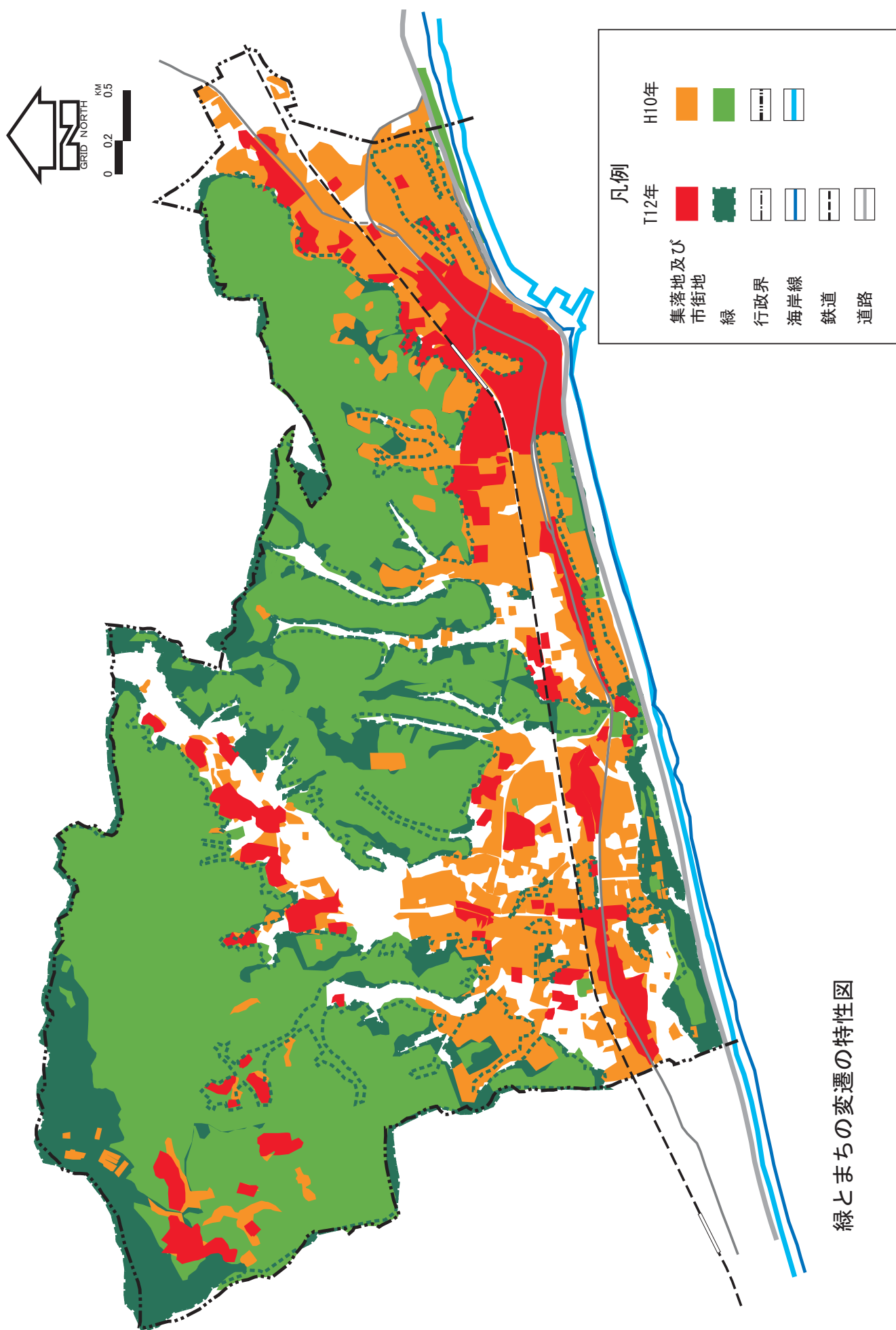
景観構成機能図

GRID NORTH

都市を代表する郷土景観 (高麗山と鷹取山の樹林帯、海岸と海辺の松林、旧東海道の松並木、城山公園、金目川、不動川、菟川)
~~~~~ 市街地周辺の斜面緑地  
● 地区を代表する郷土景観 (寺社境内地、街路樹、緑地協定地区)

▲ 優れた景観の眺望点 (高麗山、湘南平、鷹取山、城山公園等)  
 ランドマークとなる場所 (高麗山、鷹取山、旧吉田邸、大磯駅前樹林等)  
 海面

0 0.2 0.5 KM



緑とまちの変遷の特性図